

昔のくらし「貸し出し資料」を利用した学習活動

1ねらい

古くから残るくらしにかかわる文化財にふれる調査活動や、五感をはたらかせた体験活動を設けることを通して、今と昔の生活を比較したり、昔のくらしの様子や道具の移り変わりに気付いたり、昔の人々の思いを感じたりするなど、子どもたちが主体的に追求を深めていくことができる。また、古い物と自分の生活との結びつきを感じながら自分の生活を見直すことができる。

2指導計画

社会科「昔のくらし」全7時間

- 第1、2時 **昔のくらしについて聞いてみよう** おじいさんおばあさんから聞いた身の回りの古い道具の使い道や使い方を交流し、古い道具調べの計画を立てることができる。
- 第3～5時 **古い道具を調べよう** たらいや昭和30年代の洗濯機を使う体験をしたり、ゲスト「本時」のお年寄りから話を聞いたりして昔の道具やくらしを調べることができる。
- 第6時 **道具のうつりかわり** ゲストのお年寄りの話や洗濯体験をもとに道具の移り変わりを年表にまとめることができる。
- 第7時 **年表を見て話し合おう** 年表を見ながら道具の移り変わりと共にくらしがどのように変わっていったのかについて考えることができる。

3事前打ち合わせ

資料借用の依頼

①電話で借用したい道具名や必要数について、打ち合わせをする。

※ここでは、洗濯板・たらいと昭和30年代の洗濯機（ローラーで水をしぼる電気洗濯機）の両方を体験する場合を活動例にあげたが、洗濯板・たらいの体験でも十分活動ができる。

※この他、「炭火アイロンを使ったアイロンがけ体験」「七輪を使って魚等を焼く体験」「お釜でご飯を炊く体験」「ランプに火をともして明るさを見る体験」「さお秤やばね秤を使って重さを量る体験」などが考えられる。

※固形石鹸やバケツは各校で用意する。

②資料借用申込書を提出する。

<留意点>

- ・単元の学習時には、昔の道具の利用貸し出しが集中する可能性があるため、電話であらかじめ問い合わせるとよい。
- ・資料を借用・返却する場合、梱包や運搬は借用者がおこなうものとする。
- ・歴史博物館の学芸員に道具の説明を依頼することもできる。

4学習場所 排水のよい広い場所

- ・水をたくさん使うため、水道に近くて、排水のよい場所がよい。
- ・昭和30年代の洗濯機を使う場合は、電源の確保をする。